

こんどうきょうづつ 金銅経筒

●所在地／大平 ●所有者／個人

この経筒は経典を入れてきょうづか経塚に納める容器である。総高 30cm、筒身高 25.6cm、筒口径 12cm、青銅ちゆうぞうと きん 鑄造鍍金で、宝珠型ほうしゆのつまみのついている傘形かさがたの蓋ふたがある。筒身には精ちな毛彫りによる双鉤体そうこうたいで、書風、書体ともすぐれた典型的な平安風の筆跡で、右記のようにこくめい刻銘されている。

昭和 33 年 (1958) 年、大平の堂ヶ谷おおひら どうがたにの松林を開墾中に出土した。中には 8 卷の経巻が納入されており、経巻は固化して開くことができないが、法華経ほけきょう 8 卷きゆうあんと思われる。久安 6 年 (1150) は、県出土品の在銘としては最古のものである。

各為二親
奉人如法経筒
久安六年八月卅日
乙氏親遠
藤原氏女
秦氏は延



経塚は 11 世紀末ころから、末法思想により天台宗を中心として行われたもので、各種の経典を筆写して経筒等に入れ、地下に埋めて後世に伝えようとする風習である。